

アナリストを取り巻くコンプライアンス —フェア・ディスクロージャー・ルールの導入後—

川村 紹子

目 次

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. はじめに | 7. 証券会社内の情報隔壁 |
| 2. アナリストが順守すべきルール | 8. FDルールの証券会社の実務への影響 |
| 3. 処分事案 | 9. コンプライアンス意識の高まり |
| 4. 日証協によるアナリスト・ガイドライン | 10. 働き方改革の影響 |
| 5. 諸外国の規制 | 11. 終わりに |
| 6. 日本版フェア・ディスクロージャー・ルール | |

近年のセルサイドアナリストを取り巻くコンプライアンス環境は、ますます厳しくなっている。日本証券業協会のアナリスト・ガイドラインやフェア・ディスクロージャー・ルールの導入により、情報管理には一層留意が必要である。また、働き方改革の影響もありアナリストの時間の使い方にも変化が見られる。本稿では、近年のアナリストを取り巻く潮流について、証券会社のコンプライアンス担当者の視点から取り上げている。

1. はじめに

証券会社等に所属するセルサイドアナリスト(注1)を取り巻くコンプライアンス環境は近年ますます厳しくなってきたと言えるだろう。現場のアナリストに話を聞くと、特にベテランからは、昔よりも様々なルールが厳しくなったという声が多く聞かれる。また、働き方改革の流れにより、長時間労働が当たり前だったアナリストの時間の使

い方にも変化が見られる。本稿では、近年のアナリストを取り巻く潮流について証券会社のコンプライアンス担当者の視点から取り上げてみたい。

2. アナリストが順守すべきルール

証券会社に所属するアナリストとして順守する必要がある法令等としては、日本においては金融商品取引法や日本証券業協会(以下、日証協)の



川村 紹子(かわむら しょうこ)

モルガン・スタンレー MUFG証券(株)法務・コンプライアンス本部ヴァイス・プレジデント。東京大学法学部卒業。ゴールドマン・サックス証券、メリルリンチ日本証券を経て、2009年金融庁総務企画局国際室国際証券専門官。11年7月から現職。リサーチ部門、投資銀行部門及び資本市場部門のコンプライアンスを担当。16年には日本証券業協会による「協会員のアナリストによる発行体への取材等及び情報伝達行為に関するガイドライン」策定の検討ワーキングに参画。